

教育目標	
心豊かでたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが好きな遊びを見つけ楽しんだり、様々な経験を重ねたりすることで、安心感や自信を得て次の活動に向かう姿が見られる。 ・子ども自らが主体的に遊ぶ姿や、遊びや話し合いの場で、子ども同士が思いを通じ合わせたり、折り合いを付けたりする姿の育成を目指すための保育や環境構成を目指す。 ・保幼小接続に向けた取組の充実を図る。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性に合わせて、適切に指導されていると感じる。 ・親子お茶会など、地域団体でできることで協力していきたい。 ・子どもの弱いところや苦手なところも、決して無理強いするのではなく、自然な流れで導いていることに安心感を覚える。 ・子どもの姿やかかわり方について、小学校にも引き続いていただくことが心強い。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	H30. 9. 10～9. 21 H30. 10. 4	学校運営協議会 理事
最終評価	H31. 2. 12～2. 22	学校運営協議会 理事

(1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体的な活動を確保した計画的な環境構成 ・子どもの姿から「何を学んでいるのか」という見取りや、この活動から「どのような力を育みたいのか」という目的を持った計画的な保育の実践 ・「安心・安定」「自己発揮」「協同性」をキーワードとして、子どもが夢中になって遊び込む保育の推進、週案の作成
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体的に遊ぶ姿を目指す週案の作成と計画的な環境構成 ・研究保育やエピソード研修による子どもの姿の見取り ・行事の精選、行事と保育との関連付けを重点として年間計画の作成 ・アンケート項目「夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を身に付けていること」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を振り返り、次週の週案を作成している。 ・3歳児と5歳児の研究保育では、具体的支援や環境構成について学ぶことができた。 ・行事の精選を行っているが、長期的な見通しを持った精選には至っていない。 ・アンケート項目「夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を身に付けていること」 「あてはまる」80%、「ややあてはまる」20%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育で具体的支援や環境構成について学ぶことができた。 ・日常の保育を園行事に繋ごうとしているが、不十分な面がある。 ・遊びの中の学びについて、子どもの姿を通して保護者の理解を進められた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の見通しを持ちながら、子どもが主体的に遊ぶための具体的な支援や環境構成を、週案に表す。 ・研究保育やエピソード研修を通じて、子どもが主体的に遊ぶ姿を探求する。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体的に遊ぶ姿を目指した週案の作成と計画的な環境構成 ・研究保育やエピソード研修による子どもの姿の見取りと教育力量の向上 ・アンケート項目「夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を身に付けていること」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添って、温かい指導ができています。 ・毎日、のびのびと園生活を送っている姿が見られる。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に遊ぶ姿を目指して、週案に保育計画や環境構成を示し、実践した。 ・4歳児の研究保育では、子どもの姿の見取りと具体的支援について学ぶことができた。 ・10月以降にエピソード研修を持てなかった。 ・アンケート項目「夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を身に付けていること」 「あてはまる」76%、「ややあてはまる」20%、「ややあてはまらない」4%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年教員にとって、主体的に遊ぶ子どもの姿の見取りや、計画的な保育、環境構成などについて学ぶことができた。 ・「夢中になって遊ぶ子どもの姿」をどのように捉えるかの共通理解を図り、保育の充実を図っていきたい。 ・子どもが目にする園内環境の重要性を再認識し、遊具の整備を順次行っているが、整備する時間の確保が難しい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の保育の重点を踏まえて、どのような行事や保育を大切にしていけるかをともに、行事の精選を図っていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修を年間計画に位置付け、子どもの姿の見取りや具体的支援などについて、教育力量を高める。 ・園内環境整備に向けての年間計画を立案する。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育や幼教研の研究部会から、子どもの見取りや環境構成について学び、自園の保育にも生かすことができた。 ・担任4人のうち3人が異動・新任教員であったため、本園の行事や取組の共通理解に時間を要した。次年度は、担任自らが主体的に保育内容を計画したり、練ったり、環境構成したりしていくようにしていきたい。 ・保護者アンケートから、前期よりも後期に保育の充実への期待が高まるように感じている。子どもの姿やこの保育でどのような姿を育てようとしているかなど、具体的に発信していきたい。 <p>＜次年度の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢中になって遊ぶ子どもの姿を探究する。 ・保育研究とエピソード研修を充実する。 ・園内環境整備を計画的に実施する。 ・「働き方改革」事業推進園として、校務支援員の有効活用や教職員の負担軽減・長時間勤務時間の短縮を図る。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性に合わせて、適切に指導されていると感じる。 ・ささいなことでも、子どもの「できた！」という気持ちに寄り添ってくださっている。 ・子どもが日々楽しそうに伸び伸びと育っているのを見ることができる。

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む **幼小接続の視点**

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な保幼小連絡会 ・年間交流計画の作成 ・改進黨育所・竹田小学校・竹田幼稚園の保育・授業参観，合同人権研修，公開保育の実施 ・読書活動の推進，「親子で絵本！」の取組の定着
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流と教職員連携の振り返り ・保育参観・授業参観・保幼小行事への参加教職員数 ・自由貸出の設定，絵本室の環境整備，「親子で絵本！」の活用度 ・アンケート項目「園・家庭・地域が連携して，子どもを育もうとしている」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流について，改進黨育所との交流はできたが，小学校との交流はできていない。 ・保育参観・授業参観には，多くの教職員が参加し，感想の交流ができた。 ・絵本室の環境整備は進められたが，自由貸出日の利用度は低い。 ・アンケート項目「園は，小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」 「あてはまる」70%，「ややあてはまる」30%

自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な保幼小連絡会をもち、子どもと教職員の交流・研修を計画し、実施後の振り返りを行い、成果と課題を共有している。 ・教職員の保育・授業参観は感想の交流だけに留まっている。 ・5歳児は保育所や小学校との交流を行っているので、保護者が取組を進めているという事を理解しているが、他のクラスは目に見える実感がない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連絡会での振り返りの内容を、教職員に周知していく。 ・保育・授業の参観だけでなく、保幼小の教職員がお互いの教育を話し合い、理解し合う教職員研修が必要である。 ・ホームページや園だよりなどで、保幼小連携・接続の具体的取組を発信する。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小接続の様子や成果と課題について、各施設の教職員への周知・共有化 ・保幼小連携・接続に関する保護者への周知 ・アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・竹田幼稚園は竹田小学校と隣接しているので、その利点を生かして幼小接続を進めてほしい。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小接続の様子や成果と課題について、定期的な連絡会を持ち、意見交流ができた。 ・保幼小連携・接続の取組について、ホームページや降園時に保護者に発信した。 ・アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」 「あてはまる」58%、「ややあてはまる」38%、「ややあてはまらない」4% 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、保幼小の連携を計画的に進めることができた。連絡会の窓口になっている教員が連携の中心になっており、幼稚園・保育所・小学校の各教職員が、お互いの教育を理解するまでには至っていない。 ・ホームページによる取組の発信だけでは、5歳児以外の保護者に、小学校に向かう学びの力を各学年に応じて育てていることが、伝わりにくいのではないかと。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小の各教員が、お互いの教育を理解するために、保育参観や協議する機会を設定する。 ・5歳児の保護者だけでなく、3歳児・4歳児の保護者にも、保育の中でどんな力を育てようとしているのか、それが小学校に向けてどのように発揮されるのかなどを具体的に発信していく。
	<div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携の年間計画に沿って、取組を実施することができた。 ・保幼小の教職員が、それぞれの教育を理解するために、次年度は、幼稚園の公開保育を実施し、保幼小の教員が意見交流し学び合う機会を設定したい。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活に向けて不安でいっぱいでしたが、園での様子だけでなく、療育の様子も気にかけてください、小学校の方にも引き継いでいただくことが、とても力強いです。
---------	--

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら体を動かす意欲の育成を目指した「運動遊び」の保育計画 ・発達に応じた基本的な生活習慣の育成を目指した保育計画 ・幼児の自信と自立心の育成を目指した保護者との連携・啓発 	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の中での「運動遊び」の設定、実施の振り返りと改善 ・アンケート項目 「子どもは、戸外で遊んだり、自然とのかかわりを楽しんだりしていること」 「園では、子どもの心と体の健康についての取組を進めていること」 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の中で「運動遊び」を設定しているが、3歳児は子どもにより運動遊びに向かう気持ちに、個人差が大きい。 ・アンケート項目「子どもは、戸外で遊んだり、自然とのかかわりを楽しんだりしていること」 「あてはまる」86%、「ややあてはまる」14% 「園では、子どもの心と体の健康についての取組を進めていること」 「あてはまる」86%、「ややあてはまる」14% 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動を通じて、継続して行う姿勢を育てているが、畑が離れているところにあり、常に見られないことから、身近なものとしての意識が薄く、継続的な活動になりにくい。 ・毎月、保健だよりで季節に応じた保健関係の内容を発信したり、発育測定時の保健指導で子どもに健康や生活習慣についての話をしたりしている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日60分の体を動かす運動を保育に設定する。 ・小学校に向けて、どのような生活習慣を身に付けることが大切であるかを、教職員が共通理解し取り組む。 ・5歳クラスは、小学校への接続を意識した生活習慣の定着を図る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の中での「運動遊び」の設定、実施の振り返りと改善 ・アンケート項目 「子どもは、戸外で遊んだり、自然とのかかわりを楽しんだりしていること」 「園では、子どもの心と体の健康についての取組を進めていること」

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年、自然災害の多い年ですが、保護者アンケートの中に避難訓練の積み重ねが身に付いているとのコメントがあり、地域の安心安全担当として、大変力強く感じた。災害は突然やってくるので、“備えあれば憂いなし” 日ごろの訓練が第一です。 ・大阪北部大地震で、ブロック塀が倒れ、女子が亡くなったことは、本当に残念なことでした。私達竹田の地域住民も通園路を再度確認して、安全に気を配りたいものです。
---------	---

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の中での「運動遊び」の設定し、振り返りをもとに自習への保育計画に繋げた。 ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> 「子どもは、戸外で遊んだり、自然とのかかわりを楽しんだりしていること」 <ul style="list-style-type: none"> 「あてはまる」 92%、「ややあてはまる」 8% 「園では、子どもの心と体の健康についての取組を進めていること」 <ul style="list-style-type: none"> 「あてはまる」 82%、「ややあてはまる」 18%
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、子どもが園庭や園外保育で遊び楽しんでいる姿を、保護者が実感している。 ・保健日よりでは、次節に応じた内容の記載を意識し、健康や日常の基本的生活習慣の啓発に努めることができた。インフルエンザなど流行性疾病もほとんどなく、学級閉鎖もなかった。 ・1学期に製作した竹ポッコリ・三角馬・竹馬について、遊ぶ時期に偏りが見られ、年間を通して継続的な遊びに繋がっていない。 ・2学期に『親子で楽しく はなまる チャレンジ』のパンフレットを配布し、幼児期に体を動かす運動の大切さを保護者に発信するとともに、保育計画に体を動かす運動を意識して取り入れた。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が子どもと共に体を動かす遊びを楽しみ、子ども自らが体を動かして遊びたいという意欲がわくようにする。 ・小学校に向けての基本的生活習慣を教員間で共有し、保育の中に位置づけていく。 ・預かり保育の中でも、体を動かす遊びを計画的に取り入れていく。 <div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊びの大切さを教員が意識し、週案に記述し、保育の中に生かしていた。 ・道具を使った体を動かす遊びが、年間を通じて継続的に実施する。 ・遊具の遊び方について、教職員で共通理解を図り、子どもへの安全な指導を徹底する。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも、小動物を飼ったり、植物を植えたりすることで、生き物を大切にする気持ちが芽生えると思う。

(4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組

- ・ 幼児自身が大切にされていることを実感できる保育の推進
- ・ 教職員との信頼関係の構築
- ・ 発達に応じた人との関わりを重視した保育の設定
- ・ 幼稚園家族（異年齢グループ）の活動を通じた自己有用感・自尊感情の育成

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ アンケート項目
「子どもは、友だちや教職員とともに遊び楽しく幼稚園生活を送っていること」
「園では、子ども一人一人が大切にされていること」

中間評価

各種指標結果

- ・ アンケート項目「子どもは、友だちや教職員とともに遊び楽しく幼稚園生活を送っていること」
「あてはまる」 89%、「ややあてはまる」 11%
「園では、子ども一人一人が大切にされていること」
「あてはまる」 80%、「ややあてはまる」 20%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、子どもが安心して過ごせる保育を進めている。
- ・ 子ども自身で解決できるように、声かけをしている。
- ・ 発達に応じた個別の支援をしているが、具体的支援の共通理解が必要である。
- ・ 幼稚園家族（異年齢グループ）を活用して、自己有用感や自尊感情が得られる取組を進めている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 一人一人の子どもの個性や発達の違いを理解し、個別の具体的支援を行う。
- ・ 遊びの中で友達を思いやる心や道徳性を育てていく。
- ・ 大人自身が子どものよりよい成長のモデルとなるように、子どもに関わる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ アンケート項目
「子どもは、友だちや教職員とともに遊び楽しく幼稚園生活を送っていること」
「園では、子ども一人一人が大切にされていること」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 豊かな心を育てるというのは、本当に難しく、私自身豊かな心を持っているかというと、自信がありません。自然を敬い、友達にやさしくしたり、されたりして、子どもの心も育っていくと思います。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・ アンケート項目「子どもは、友だちや教職員とともに遊び楽しく幼稚園生活を送っていること」
「あてはまる」 92%、「ややあてはまる」 6%、「ややあてはまらない」 2%

「園では、子ども一人一人が大切にされていること」

「あてはまる」 78%, 「ややあてはまる」 18%, 「ややあてはまらない」 4%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・経験を積み重ねることで、子どもはできることが多くなり、自信に繋がっている。
- ・自己主張が強く出る子どもの姿が見られるようになり、話し合いがまとまらなかったり、折り合いがつきにくかったりする姿が見られる。
- ・子どもの姿や気持ちの理解に努め、担任と支援員が共通理解を図り、同じ視点で個に応じた支援を行っている。
- ・異年齢での遊びや活動を取り入れ、子どもに自己有用感や自尊感情が育っている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・子どもの思いをよく聞き受け止め、子どもの気持ちに共感したり、寄り添ったりすることで、自尊感情や自己有用感を育てる。
- ・遊びの中で、子どもたち自身がルールを作ったり、話し合ったりする姿を認め、自立心や道徳性を育てる。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・運動会や生活発表会等の園行事や日常の遊びを通して、子ども自身ができることを喜び、自信を得て、次の活動に繋がっている。
- ・教職員が子どもと共に遊び、できるようになったことを褒め喜び認めることで、子どもと教職員との信頼関係を築けている。
- ・子どもが自信や安心感を得る保育を目指す。
- ・子ども同士の話し合い活動や折り合う心を育てるための適切な支援をする。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子どもの弱いところや苦手なところも、決して無理強いするのではなく、自然な流れで導いてくださるので、安心感を覚える。